

2026 年度一般編入学試験

現代社会学部現代社会学科 小論文問題用紙

次の文章を読んで、下記の問いに答えなさい。

過去数年で、多くの論者がデジタル技術——とくにソーシャルメディア——の発明を、活版印刷技術のそれと比較してきた。クレイ・シャーキーの言葉でいえば「かつてはラジオやテレビ塔、あるいは印刷機を持たなければならなかった。今ではネット・カフェか公共図書館にいけば、自分の考えは公衆に届けられる」ようになった。ヘザー・ブルックはもっと端的にこういう。「私たちの印刷機はインターネットであり、私たちのコーヒーハウスはソーシャル・ネットワーク」なのだ、と。

こうした主張を否定するのは簡単だ。思想家たちは「同時代主義」、つまり自分たちが生きている時代が人類史の中で特別なものとみなす態度を、常に諫め続けてきた。近年のツイッターやフェイスブックといった発明が人類史に大きな変化をもたらすという意見も、こうした (a) 認知バイアスの罠にかかっている可能性はある。

「同時代主義」に陥らないよう注意することは大事だ。しかし、デジタル技術と印刷機の発明に、一定程度の類似性があることは否定し難い。印刷技術と同じように、インターネットとソーシャルメディアの発明が、コミュニケーションの構造的条件を根本から変えたのは確実だ。

印刷機が発明されてから約 500 年、一人から多数へのコミュニケーションのコスト低下と速度向上は、その範囲を拡大させつつ、急激に進んでいる。1992 年の時点で、数十億人もの世界のテレビ視聴者に向けて、特定事件の音と光景を瞬時に伝えることも可能となった。

それでも、この CNN の世界は、まだキング牧師の世界に留まっていた。中央集権的なコミュニケーター——TV とラジオ放送網、新聞社と出版社——は限られており、受け手の数の方が多かった。大多数の市民にとっても、自らの手で発信をするのはコスト面から無理難題だった。オピニオンリーダーとなるためには、お金を払うか、発信能力を持つオーナーを説得してそのプラットフォームを貸してもらうしかなかった。

しかし 1992 年から四半世紀が経ち、こうした制約はもはや取り払われるようになっている。

まづワールドワイド・ウェブは、先進国の住民が自身の意見を世界に向けて発信することを可能にした。寡少のコストでウェブサイトを開設すれば、ネット接続できる機器を通じて、その内容は閲覧されることになる。一人から多数の流れしかなかったコミュニケーションは、500 年経って、ようやく民主化されることになったのだ。

この形式の小さな違いは、やがて大きな違いを生むことになる。ネット接続できればサイトを閲

覧できるにせよ、それは旧式のプラットフォームを通じて、いくつかの主要なコンテンツをシェアできるだけだった。たとえば、joeboggs.com と nytimes.com というサイトは理論的には同じように簡単にアクセスできるものの、joeboggs.com がどんなサイトであるかを世界の人々が知るのは難しい。

最後まで残っていたこの制約を、ソーシャルメディアは取り払うことに成功した。フェイスブックやツイッター上では、あるユーザーが投稿したコンテンツは、別ユーザーによって簡単に再投稿することができるからだ。元のコンテンツが十分に新しかったり、興味深かったりするものであれば、つながりの少ない者であっても、ものの数分で大多数のオーディエンスを得ることができる。

互いにコミュニケーションするユーザーによる広範なネットワークが形成されることで、ソーシャルメディアは、配信のダイナミズムを大きく変えた。「ミーム [模倣]」や「ヴァイラリティ [拡散]」といった用語が、新しい日常用語となったのには理由がある。数人の仲間の想像力を捉えて、誰もがグローバルなオーディエンスに向けてシェアできるというこの世界の重要性を、唯一表現できるものだからだ。

別様に言えば、ソーシャルメディアの台頭によって、一人から多数へのコミュニケーションは今や「多数から多数へのコミュニケーション」へと変容した。この多数から多数へのコミュニケーションで最も大事な点は、巨大なプレイヤーが、アイデアの拡散や一般民衆に響くメッセージを届ける能力を多く失ったことにある。

25年前であれば、放送局は数百人の聴衆の関心を引く映像——それが飼い猫のいたずら映像であろうが、テロ集団による狂暴な断首であろうが——を放送しないままにすることができた。今日でも、従来からの放送局はこうしたものを放送することを拒否できるし、実際にすることもある。しかし、これらゲートキーパーとしての役割は消滅しつつある。存分にヴァイラル [拡散されやすい] なものは、放送局の意向とは関係なく、ソーシャル・ネットワークを通じて拡散されることになるのだ。

これらすべては、デジタル・コミュニケーションの浸食が大きな政治的影響を及ぼすことを示唆している。(b) 果たして、ゲートキーパーの影響力喪失は、そのまま一般民衆のエンパワーメントと民主主義の発展につながるのだろうか——それともポピュリストが私たちの政治を侵すために必要なプラットフォームと化して、民主主義を痛め付けているのだろうか。

(出典) ヤシヤ・モンク (吉田徹訳) 『民主主義を救え!』岩波書店、2019年、を一部改変。

問1：下線部 (a) の「認知バイアスの罠」について、あなたが知っている事例を一つ取り上げて、具体的に説明してください。

問2：筆者は、デジタル技術の発明によってコミュニケーションのあり方がなぜ、どのように変化したと考えていますか。説明してください。

問3：下線部 (b) について、あなたはどのように考えますか。その理由も含めてあなたの考えを述べてください。

2026年度一般編入学試験

現代社会学部現代社会学科 小論文解答用紙

受験番号 () 氏名 ()

問1

問2

(裏面使用「可」)

